

平生町立学校の将来の在り方検討委員会意見まとめ（第1回検討委員会を終えて5/23提出）

1 適正規模・適正配置の観点から

○ 小規模学校のメリットとデメリットの再整理

メリット	デメリット
・引っ込み思案の子どもは溶け込みやすい ・上級生と仲良くなれる ・先生の目がとどきやすく、児童との距離が近い ・学習では個々に合った丁寧な指導をしやすい ・発表の機会が増え自信が持てる ・学習リーダー等の主体的授業実践 ・少人数なのでいろいろなことに経験が accrue する ・生活では、互いを知っていることで安定した学校生活がしやすい。（人間関係で面倒なことが少ない） ・地域の人との距離が近くなり、顔見知りになりあいさつもする ・全体を把握しやすく、行事・取組等で動きやすい	・競争相手が少ない ・団体でのスポーツができない ・少人数なので制約がある ・性格が合う合わないの問題（人間関係が固定化しやすい） ・学校運営でも行事とか難しい面がある ・児童や保護者の負担が増える ・学習では、多様な考えが出にくく、話し合いに深まりを期待できない ・生活では、いろいろな個性のある人との交流が少なく、人間関係づくりの経験が乏しくなる ・役割が固定化しやすい ・教員にとっては校務分掌で多くの業務を抱え、出張等も多く負担が多い

- 子どもたちの将来を考えると早い時期に多くの友と関わっていくことは、とても大切な事だと思う。集団の中でお互いの意見を聞きながら、その中で自己主張していくことは、コミュニケーション能力を身に付けるうえで大切だと思う。
- 教育には先ず環境が大切といわれるように「安全」「元気」「楽しく」に行き着く事を目指すと良い。
- 子ども達が毎日学校が楽しく、笑顔で「いってきます!!」って登校してくれる学校になることを心から願っている。
- 佐賀小は「地域の人憩いの場にもなっている」という意見があったが、あくまでも中心は子供。平生小も平生中も多くの地域の方で支えられていることに変わりはないので、その活動拠点が町立学校1つにまとまるというイメージですすめられないのか。
- 1学級の人数の多少により、複式学級が存在することには、教育効果が同一とは考えにくく、児童生徒が減少する中、一定の規模を確保し、子どもたちのために教育環境を充実することが求められていると考える。少人数には良さがあり、それを希望する保護者もいることは理解するが、一方で多くの人と関わりを持ち、社会性のある子、生き抜く力を持った子に育ってほしいと思う保護者もあり、佐賀小と平生小の統合により、適正規模に近づけ、統合メリットを最大化すべきであると考えます。
- 少子化の進行と学校施設の老朽化、町の財政面やグローバル化を考えると施設一体型小中一貫校を視野に入れ段階的に進めていくと良い。

- 少子化や財政面から考えても、町立学校の設立が望ましいのではないかと考えるが、人数が多い場所での生活が苦手な子が増えてきているのも事実。大きなコミュニティの中で生活が可能となるような工夫が必須であると考える。(例えば、町立学校の中にのぞみ等の特別支援学級とは別に、小規模クラス等を設けるなど)
- 消滅可能性自治体にもランキング入りし、今の地域の方々が何十年後も同じように活動が可能とは考えづらい。また、若い世代も地域活動への参加が乏しく、先を見越してすすめていく(町立学校1つにまとまる)べきだと思う。
佐賀小は新たなコミュニティの場として活用し、出張〇〇等企画し地域の方々と交流する場にしていく等工夫する必要がある。
- 今後の少子化、児童生徒の減少予測を考えると、小学校2校の現状通りでの継続は考え直す必要はあると思う。ただし、アンケートからも分かるように、地域としては、佐賀小の継続を願う気持ちが強いので、施設一体型にする場合は、納得いくように説明していく必要や、学校をなくす場合には、補完事業を丁寧に行っていかなければならないと思う。
- それぞれの地域でコミュニティが出来上がっており、特に佐賀地区は地域のつながりが強く、学校支援も手厚い。佐賀地区から小学校が無くなった場合、地域のつながりが継続できるかどうか分からない。しかし、曾根や堅ヶ浜、宇佐木地区に小学校はないが、地域コミュニティのつながりは深い。平生小への支援も手厚く行われている。この地区のように佐賀地区が変れるような支援が必要であろう。
- 少子化の進行により、R8年度には佐賀小が完全複式、R9年度には平生中が全2学級、R10年度には平生小が全2学級になる。適正規模の観点では、佐賀小と平生小は統合した方がよい。
- まずは、佐賀小を平生小にまとめ、その後、平生小の位置にできるだけ早く施設一体型小中一貫教育校として設立することを望みます。
- 通学時間、通学方法についても考えていく必要がある。
- 通学時間や方法を考えると、路線バスが不便な町内では保護者の送迎負担が大きくなるのではないかとと思う。できればスクールバスの導入や、バス会社との提携(バス料金補助の拡充)等検討していただきたいと思う。
- 1校になるのであれば、通学時間や通学方法は、人数にもよるが、町にマイクロバス等を所有してもらい、通学登下校時は子どもたちが利用し、日中は高齢者が買い物や生涯学習等で利用できるように工夫し、無料とせずに有料とする。
- 今も平生小への通学で自宅から学校までの通学距離が遠い(4km近くある)児童は、徒歩なのでかなり負担が大きい。小学校1年生にとっては、大きな問題となる。バス通学であるなら、体力的負担はほとんどない。佐賀から平生までは車で15分(尾国から平生は25分)で通学時間も問題ない。できれば、町のスクールバスであれば、体力的負担はなくなる。

- 通学路の安全確保。自転車通学、バスの利用、状況によっては、スクールバスの導入を視野に入れる。通学路の長距離化を含めて新しい環境、集団適応に関する精神的疲労を感じる子への配慮も必要になってくるのではないかと思います。
- 小規模校を存続させるのであれば、メリットを最大限に生かした教育内容の充実を図る。小規模特認校継続、ICT 活用。また、教育上の課題（学習面・生活面）デメリットを解消する対策を実施し地域連携を強化する。移住者の確保等地域・町の努力も必要と思う。
- 規模の違いによる課題として、決め細かな指導、学年間交流の密度、一人一人の役割分担の多少、人間関係固定化の善し悪しなどが挙がっていたので、学校機能として詰めていく必要がある。
- 施設一体型小中一貫校が現在の平生中か平生小の場所になった場合に、
 - ・ 佐賀小が小規模校としてよい学校であることが広く認識されているが、このよさは残せるのか。
 - ・ 横に長い町であることを考えると、場所は平生中が妥当。尾国の方から自転車通学をすると歩道の整備が必要。
 - ・ 現在、佐賀方面から平生中に通っている生徒は、自転車通学、バス通学共に登校時間は何とかよいが、下校時間は部活などがあるため、自転車は猪に遭遇したり、バスは間に合わないので、尾国の生徒は家族が迎えに行ったりしている。児童は自転車通学はできないのでバスの時間がどのようになるか心配がある。
- 佐賀小から平生中へ入学する際に人数の多さに戸惑ってしまう児童が少なくないという話は印象的であった。中学一年生という多感な時期にはきついだらうという感想を持った。
- 不登校児童生徒増加の要因の一つとして、集団に馴染めないなどの子どもの存在があることを考慮し、中学生を含めた「第2の学び場」として小規模の学校施設を残し、通学先の選択肢とすることも考えられると思う。
- 学校の統合により使わなくなる施設で耐震化工事が済んでいる校舎については
 - ① 地域の防災拠点として活用
 - ② 不登校児等の居場所として、教育支援センター（適応指導教室）の機能での運用を希望する。
- 人間関係の構築に不安を抱えている児童が、小規模の学校ならば通えるという思いから佐賀小を選んでいるのなら、その環境をなくしてもよいものか、逆に少人数の学校で躓きを覚えた時に、クラス替えなどができる人数の学校ならば救われる子もいるのではないか。すべての児童の状況に応じての対処は、どちらを選択して難しいこととは思いますが、一人でも多くの子が楽しく学校へ通うことができるよう望んでいる。
- （上記の人間関係の課題とも関連した統合の意見）小規模校は少人数の為、人間関係が固定化しやすい。良い人間関係が築ければ、学習面、生活面共に楽しく伸びてい

く事ができるが、人間関係がうまく築けない場合は逃げ場をなくし、いじめや不登校に繋がりがやすい。

- 実際に佐賀小から中学校に入った子どもや卒業生・その親を対象に、不登校や困ったことはないか等の意見を聴いてみたらどうか。改善点が見いだせるのではないか。
- 平生小と佐賀小は距離が離れており、平生小に統合した場合、佐賀小から通うには子どもたちに大きな負担がかかる。適正配置の観点からは現在の2小学校の位置は最適である。
- 少人数クラスで学習するメリットに、同級生が増えることによって多様な考え方を吸収したり切磋琢磨したりできることの良さが加わることで、さらなる学習意欲の向上につながればと思う。
- 無理とは思っているが、適正規模・適正配置の観点から行けば、佐賀小と平生小に、今の児童が半分ずつ通学できるとよい。(施設分離型一貫校として、教員の負担は増えるでしょうが…)
- 言うまでもなく佐賀小は地域との関係が素晴らしく、児童も有意義で、かつ地域にとっても佐賀小はとても大切な資源だと感じるが、本検討委員会の検討においては、「地域のための学校」ではなく「子供たちのための地域との協働」であることを重視し地域振興とは分けて考えるべきと思う。あくまでも子供たちへの教育の一環としての地域との協働だと考える。
- 学校訪問では低学年の授業の様子は佐賀小の方が、目が行き届き、きめ細やかな対応ができていた。しかし、中・高学年では多様な意見に触れながら自分の考えを深めるためには、多人数の平生小の方がよいと感じた。
- 観点によって統合に対する考えが変わる。どの観点を優先するのか今後しっかりと議論を深める必要がある。
- 佐賀小は、小規模特認校であるが、平生小校区から通学し、受け入れの児童数が複式学級解消に結びついていない等、期待した効果が得られているのか疑問に感じることもある。

2 連携・協働を基盤とした学校づくりの観点から

- それぞれの地域性があるので、佐賀・平生地区ともお互いに尊重し合い、それぞれの良さを共有し、高めていけると良いと思う。平生町内の知らない地域や風習、伝統文化等たくさんあると思うので、お互いに学びあい、生涯学習にも繋がるとベストだと思う。
- これからは、「佐賀」「平生」と明確に区別せず「平生町の子どもたち」という思いを、地域住民の皆が共有していけたらと思う。
- 県内の全小中学校は、コミュニティスクールとなり地域教育ネットを構築して地域性を出した地域と共にある学校づくりを進めている。佐賀小、平生小、平生中も今進

めている地域カリキュラムをさらに楽しく、ふるさと愛が育つものにしていくとよい。一つに統合できれば、平生町の「地理・自然」「平生町の歴史・文化・昔話」「平生町の産業（塩田、漁業、農業（みかん・オリーブ・レモン））」を学ぶカリキュラムを幼保・小・中の一貫で作成し、体験重視型の学習を地域連携（役場職員、今ある地域教育ネット、PTA、町内の業者）で進めるとおもしろい。

- 地域教育ネットについて、中高生ボランティア活動の導入は、地域との連携を深めるとともに子どもたちの郷土愛を育むうえで非常に有効であったと思う。今後、小学生にも広がるとのことで益々期待をしている。
- 家庭教育支援チームの活動は、素晴らしいと思う。先生方の負担を軽減し、保護者の不安解消につながる活動は、町立学校再編の際にはさらに重要な役割になると考える。応援隊の皆さんが無理なく支援を続けることができるような体制づくりを引き続きお願いしたい。
- 検討資料 P11 の図がただの羅列になっており分かりにくい。また、地域学校協働活動と地域協育ネットが同義となっているが、それは違う。「地域協育ネットの取組」として、地域ぐるみで子どもたちの学びや育ちを支援している体制について具体的に記述できるとよい。それがないのであれば、今後どのように体制整備するのかを記述すればよい。
- 検討資料 P12 アの「地域教育ネット運営委員会」の性格が分からない。学校の付属機関のような印象を受ける。異校種間連携の中心は情報交換ではなく、教職員同士がお互いをよく知るということである。そのためには共通実践が大切だが、その部分がとても薄い。
- 検討資料 P33 の『クロッカスネット（仮称）』構想図（地域協育ネット構想図）の地域学校協働本部というのは具体的にどんな組織なのか？新たに立ち上げる？
- 現在、学校と地域の連携及び協働は、非常によく機能しているのではないかと思う。特に、佐賀小は地域の方の協力が多大で、まるで学校を中心とした大家族のような温かさが見られる。そんな地域の中心的存在である小学校が無くなり統合した場合、佐賀地区以外の学校では今までのような活動をしていただけるのかということは、難しい問題だと思う。この課題解決をどうするか。
- 佐賀小は平生と一緒になったときは、地域の連携は。今のようにはいかないと思う。佐賀地域の人が、曾根や平生に行くことはその気持ちはあっても難しいと思う。
- 「地域協育ネット運営委員会」の資料から、次のことが継続課題だと思う。
 - ・ 子どもたちの地域活動への参画意識の醸成
（活動範囲があまり広域にならないようにして、子どもの地元意識を醸成できるとよいのではないか。）
 - ・ 各学校間の情報共有および連携の強化

(各学校の運営協議会を合同で行うときに、少人数で話し合うと話がしやすい。)

- ・ 放課後子どもの活動支援サポーターの担い手の減少・・・宣伝活動
- ・ コミュニティルームの活用促進

(CS や、協育ネットを学校側で進めているときには、「地域とともにある学校」など意識してきたつもりであったが、保護者ではない地域住民の立場になってみると、学校という場所は、「ちょいちょい行くには敷居が高い」というのが正直なところである。公民館との施設一体型も増えている中、地域（施設・活動）との融合をどのように進めていくべきか、学校、地域が、お互いに考えなくてはならないと思う。)

- 学校支援ボランティア活動については、「登録しても声がかからない」、「コーディネーターの知り合いばかり、同じ人ばかりに声がかかる」等の声が聞こえてきます。気安く声をかけられ、また無理なお願いも聞いてくださるような方をお願いしたい気持ちは分かるが、可能な限り登録者全体に投げかけたり、登録者の知識や技能が活かせる活動に結び付けたりして、地域の方の生き甲斐にも繋がる活動になると嬉しい（地域コーディネーターさんの負担は増すばかりで申し訳ないが……）。
- PTA は小中合同で組織できる。
- 小学部・中学部共にそれぞれ PTA を置いた方がいいと思う。どのような運営にしていけるかは現時点ではなんともいえない。
- PTA 組織のあり方は、担い手の意識や環境が大きく変わる中で時代に合った運営の見直し、PTA 活動のスリム化等必要ではないか。教育課題の共有、解決、地域との関係、児童、生徒の健全な成長を図ることを目的として、地域の人に任せきりではなく、活動に参加することで我が子への振り返りや、周りの子どもへの関心、ふるさと平生町への愛着も湧く。学年が上がるほど役員決めは大変であるが、PTA 活動もなくなると地域とのつながりも薄くなると感じる。
- 現在の PTA 組織は、昔と比べ大きく変わってしまっていて、保護者はなるべく関わりをもちたくない状態にあると思う。
- 学校と地域の結び付きに比べると、学校と保護者の連携は少し弱く感じる。自分の子が通う学校のことにもっと興味を持っていただくことに加え、我が子だけでなく地域の子全体のことを考える視点を持って、PTA 活動や学校運営に関わってもらえると、先生方の負担も少しは軽くなるのではないかと思う。保護者が主体的に参画することのできる PTA 活動等を期待する。
- 学校と家庭の連携については、PTA 組織を進化させることが大切になってくる。
- 「PTA 組織の見直し」については、今のうちから学校間の連携を作っておくなどが必要かもしれないが、PTA の活動も分からないので、現在の PTA の方の意見や提案を伺いたい。

- 小中一貫校に移行したときは、小学校と中学校の組織が一緒に活動したほうがよいと思う。
- 施設一体型小中一貫校ならば、学校運営協議会は別々に作るべきである。ただし、会議は同一日に開催し、委員をそれぞれの部会に分け、小中一貫に関わる内容、小中別々の内容と別々に協議すればよい。例のように３段階に分けて協議することも可能である。
 例： 全体会 ⇒ 小中部会（中学校部会と小学校部会に分ける）
 ⇒ 活動部会（学力向上部 会、健全育成部会、地域連携部会に分ける）
 ※ 一方で、小中合同学校運営協議会を整備した例もある

3 学びの連続性、小中連携教育・一貫教育

- 小中一貫校は、先進地域の状況を参考にして、平生町独自の小中一貫校をつくればよいと思う。
- 小中一貫校は、教科担当制や環境面での変化が少ない事により学習力向上が見込まれ、幅広い年齢層とのコミュニケーションによる心身の活性化が見込まれる。
- 施設一体型小中一貫校になる場合は、まず小学校を統合し、ある程度期間を置いて、小中一貫校に移行するのがよいと思う。小規模校の児童がいきなり中学生と一緒にするのは負担が大きいのでは？但し、佐賀小の児童数の減少を考えて小中一貫校にならなければならないと思う。
- 1つの学校に異年齢の児童生徒たちがいることは、小学校高学年の児童は、同じ学校内の中学生に憧れたり、目標をもつことができたり、中学生にとっては、可愛い弟、妹たちの見本となるように自分にプラスとなる行動がとれる場合もある。学校運営も、現在の小学校2校で交流するときの教員（担任）同士で日程調整や学習内容をそろえるなどの負担は軽減される。佐賀小の児童にクラス替えの機会が与えられることはよいが、学級減によって教職員数が減ると、経験年数や専門分野等バランスをとっていくことは大変となる。
- 3校それぞれに良いところがあれば、複数の役割があり負担も大きく、町内の会議も多く先生方の負担も大きい。（1校になれば、町内の会議は一本化される）
- 少子化となっている現在、3校から1校になれば、学校内の多くの部分の経費は削減され、会議もスリム化する。
- 一貫教育の深化は、いわゆる「中1ギャップ」の緩和や、異年齢とのコミュニケーション、9年間を通じての教育目標や計画の設定実現など、期待できる効果が多くあると感じている。また、デメリットといわれている、小学校と中学校の節目がなくなり気持ちの切り替えが難しい、習慣の違いの調整に時間がかかる等は、学校運営や地域及び保護者の理解と協力で対応していけるのではないかと思っている。

- 少人数の佐賀小から中学校へ進学すると、同級生の人数の違いから戸惑う子も多く、その後の学校生活に不安を覚える心配もあることから、その解消には小中一貫教育は理想的だと感じる。
- 「小学校1年生は3月までは幼稚園の年長として下の子の面倒を見ていた。それが小1になると手取り足取り周りから手助けを受けるようになって、成長を妨げているように感じる」という、ある就学前施設の園長の言葉があった。これは中1にも言える。中学校の教師にその意識がないことと、教師自身が小学校の学びを知らないことが原因である。施設一体型の小中一貫校になれば、日常的にそれぞれの姿を見ることができるので、9年間を見通した指導がしやすい。例えば、総合的な学習の時間の発表会等を一緒にすれば、中学生になってからの漠然とした目標（勉強や部活動を頑張る）が、具体的な目標（小学校で学んだ地域学習をもっと深めていきたい）に変わる。
- 小学生が中学生の姿をみて、より具体的なモデルとすることができると思う。また、中学生が小学生にアウトプットしていくことで、学びの連続性が生まれるのではないか。例えば、ふるさと体験学習で学んだことを小学生向けに発表する等。
- 現在も、ふれあい遠足や合同の行事などをされていると思うが、中学生の姿を身近に感じる取組、あるいは上下学年交流を活発にすることなど日常的に上級生をロールモデルにできる取組をさらに進め、子どもたち自身が意義を感じられるとよい。
- 連携から更に強い一貫教育が望ましい。これからは、町内小中学校が一つの目標に向かって、効果が上がり合理的で時代の先を見据えた考えで平生町の子どもを教育して欲しい。学校施設を統合し、町役場の職員（地域振興課、産業課等）も授業支援に入るなど、幼保・小・中の一貫した教育を進めるべく学園町づくりに取り組んでももらいたい。運動会も体育祭、或いは体育フェスティバルとし、幼保・小・中の子どもたちや保護者・地域住民が運動を楽しむものとしたい。町文化祭も平生学園を中心とし開催し、児童生徒の合唱・合奏や各種の出店を行ったり、地域住民の催し物等を行ったりして、町が進めるイタリアーノの構想を発信することで学園町の形を作っていくとよい。IT化を進めることで学習効果を高め、ITに関する技能とマナーを高め、またスポーツの選択肢を広げることで運動が好きな子に育て、学力と体力がバランスよく育つ平生町の子どもになってもらいたい。新しい施設と新しい一貫教育の内容（カリキュラム）と平生町学園町づくりに関わる大人たちの意欲の三つが将来の町内小中学校づくりに重要となってくると考える。
- 教員が増えることで各科目の教科担任制度が叶うのであれば、小学校から質の高い教育が受けられると考える。学力の低下が叫ばれている中で非常によいことだと思う。
- 小6・中3で分けるのは現在の子どもたちの発達段階に即していない。特に小5以上は担任一人が指導するのではなく、教科担任制を導入し、できるだけ多くの目で見守ることが必要である。それが学校不適応やいじめ防止につながる。中学校が側にあ

れば、中学校教員が教科の指導を行うことも可能になる。これは中学校教員にとってもよい機会である。

- 小中一貫教育のメリットはよく理解できたが、中学校進学時に平生町立校以外（高一貫の公立・私立学校など）を志望する児童もいる可能性を考えれば、学習面での6・3の分けは残しておいて、その児童へも配慮する必要があると思う。
- 児童と生徒の呼び方を、前期・中期・後期で分けた場合、呼び方を変えるといかがか。
- アンケート結果からも、「基本的な考え方 P34 の、小中一貫の必要性」について、子どもたちの実感としての理解や、一般の方に対しての周知や説明が必要だと思う。
- 地域や保護者にも小中一貫教育の必要性を理解していただく機会をもち、「夢のある選択肢」として考えてもらうことが必要と思う。施設分離型の小中一貫教育の準備、9年間の「学校地域連携カリキュラム」の再構築など、さらに、早急に、実践を進めていかななくてはならないと思う。「基本的な考え方 P37 の学年段階の区切りと柱」についても、丁寧に説明していくことが大切と思う。
- 現在の小規模校のよさは、統合すればどのように残していくのかが重要。
- アンケートの自由記述に「不登校」「いじめ」が多い。保護者も児童生徒も安心して過ごせる学校、個に丁寧に対応できる学校を望んでいる。

4 学校施設の更新時期

- 佐賀小は、R8 年度には、完全複式の可能性があり、R9 年度には、平生中も全学年 2 クラスとなる。児童生徒が安心して、安全な校舎で学べるのが一番だと思うので早い時期に落ち着けることがベスト。
- 施設老朽化から見れば、平生小第 2 校舎と平生中管理特別教室棟は、改修不能であり、速やかな建替え検討が必要。
- 平生小はすでに築 60 年を迎えていること、平生中は築 60 年が迫っていること、80 年を目標にすることは困難であること等を考えると、10 年後までには、更新された状況にしておくことが必要だと思う。
- 子どもたちに安全な教育環境を提供すべく、早急な建替えを検討する必要がある。その際、適正規模・適正配置の観点から佐賀小、平生小の統合を進めながら、施設一体型の小中一貫教育学校を建設すべきである。建設時期は令和 11 年度くらいを目標に。
- 老朽化の平生小と平生中の一部の建物をプレハブとし、安全を確保しながら、施設統合型の学校づくりを行う。少子化に歯止めがかからない現状では、思い切った統合型で施設の建設・改修を進めて、早ければ令和 10 年に新学校がスタートできるとよい。できれば佐賀小が 20 人を割りそうな（統計表から）令和 13 年にはスタートできれば、平生中校舎築 60 年の老朽化に対応できる。

案１：平生小学校、平生幼稚園、中央児童館の建物・敷地を有効活用し、中学校施設を建設する学園町をつくる。職員室は一つにする。義務教育学校とする。

案２：平生中学校に平生小・佐賀小を統合する。町の中心から外れるので学園町づくりとしては弱い。

- 長寿命化計画により耐震化や補強、修繕等様々な対策を講じてこられたが、老朽化の進行を止めることは不可能で、子どもたちが一日の多くを過ごす施設としては不安がある。南海トラフ巨大地震の予測をはじめ、近年国内で大きな地震が頻発している状態を鑑みても、早急に建て替え等の検討を開始していただきたい。
- 児童数が減少すると保護者も教職員も減っていくと思う。地域ボランティアも少なくなると、建物の維持・管理、運動場の整備等も難しくなる。(今、地域ボランティアや保護者のやっているいろいろな活動ができなくなる) — 現在行っている諸々のことがスムーズにできなくなった時には更新をすべきだと思うが更新の期間を考えて早めに…
- 新しい施設のことを考えると、場所をどこにするのか、その間児童生徒はどこで学ぶのか、一定の期間が必要となってくる。
- 老朽化がすすんでいる箇所があるのは資料で理解できた。小中一貫校の設立に合わせて更新するしかないのでは。いつの時期までにといわれても現時点ではそれは意見しがたい。(一貫校設立をいつまでにすると分かっているなら、逆算して整備等をすすめるべきとしか言いようがない)
- 既存建物・設備面(耐震構造等)の現状及び不具合箇所を把握し、就学児童・生徒数と照らし合わせながらより良いタイミングで移行するのがよい。
- 具体的な予算・必要経費を知りたい。現状のままでのランニングコストや建替えの費用(一体型等それぞれの場合)もできるだけ詳しく知りたい。予算ではないと言うのはあくまでも理想論。無い袖は振れない。実際は大きなウエイトを占めている。
- 最後は財源をどうするかだと思う。
- 近年、全国各地で甚大な災害が起こっている。子どもたちが1日の大半を過ごす学校は、とにかく安全で安心出来る施設であることが重要だと思う。平生小第2校舎、平生中管理特別教室棟は新たに建替えを検討しなければならないとあるが、コスト面やこれからの在り方、児童数、生徒数を考えると2校とも新たに建替えを行うのは難しいと考える。平生小、平生中の施設一体型も検討する必要があると思う。

5 新しい学校施設の整備等の視点 とその他

- 新たな学校施設は、異年齢の交流を盛んに行うことのできる場所や、地域の方々と協働できるスペース等があると嬉しい。また、中学3年生が勉強に集中できる環境づくりも必須かと思う。

- 地域ボランティア、保護者、児童生徒たちが新コミュニティルームで同じ時間を共有できると、平生町全体の各年齢層の新たな学びの場となり、平生町全体に活気がでてくるとよい。
- 小学生の身近によきロールモデルである中学生がいるのはお互いにとって良い効果を生む。お互いが交流できるスペースがあるとよい。
- 児童生徒のアンケートからも、いじめのない楽しい学校となるよう、施設も誰からも柔らかい感じがする施設、寄ってみたいくなるような施設がよい。公園があり、常に花が咲いており、芝生の整備されたグラウンドが理想。幼保・小・中の児童生徒が一堂に集まることが出来る場所（体育館等）を魅力のある施設にすれば楽しい。通学バスの発着できるロータリーの玄関も必要。
- 障害のある子どもたちにも考慮した施設を整備する。
- 児童クラブとの関連をよく考える必要がある。（今の児童クラブはどうなるのか）
- 予算等がわからないのでなんともいえないが、希望を言えば整備時に給食センターの整備を行い自校給食へ戻してほしい。（周囲の保護者の意見多数）
- 今の平生小を拠点とすることになるとグラウンドや体育館は、成長が著しい中学生にとっては狭いのではないか。
- 施設一体型小中一貫校になった時に、残った施設をどう活用するのか。
- 廃校となる校舎・施設の有効利用も進めなければならない。平生小の位置に一貫教育校をつくるとすれば、平生中と佐賀小の利用をどのようにすればよいかとなる。
 - ① 一つは、不登校等による児童生徒の居場所にすることも考えられる。学園から離れての場所は、居場所にとってよいかもしれない。
 - ② 二つ目は、平生中は、運動・スポーツ専用とする。学園での体育館・グラウンドでは足りない運動・スポーツを平生中で利用する。佐賀小は、佐賀支所や佐賀保育園の施設として利用する。どちらの施設も老朽化しているので、移転することで有効利用となる。但し、現在の支所・佐賀保育園の場所は、佐賀地区で最も安全な場所として認識されている。
- 施設一体型小中一貫校を考えるにあたり、立地の条件や防災の観点からも平生中の場所を拠点とした学校施設の整備になるかと思う。しかし、平生中は老朽化が著しく、改修では追い付かないのではないかと思う。果たして国庫負担の割合が十分ではないなかでの新築が、平生町の財政で可能なかどうか不安である。